

この問題は、2025 年度一般選抜の個別試験（総合問題）をイメージするために作成したサンプルであり、実際に出題される問題とは異なります。なお、本サンプル問題では出題の意図・ねらいを掲載していますが、実施に出題される問題には掲載しません。

[早稲田大学スポーツ科学部]

総 合 問 題 (問題)

20XX 年度

(Sample 試験時間 120 分)

総合問題（サンプル問題）の出題意図・ねらい

スポーツ科学部の一般選抜（総合問題）では、これまでの学習やスポーツ経験に基づく能力・素養を総合的に評価する。

大問 1 は、社会生活基本調査の結果をもとに、データを読み取り、類推する総合的な思考力を評価する。問題 1 は、健康にとって重要な生活習慣の時間配分を考える力を問う問題であり、健康への問題意識を確認する意味もある。問題 2 は、国民のスポーツにかかる時間という、スポーツ科学部にとって基本的な知識とスポーツという行為への関心を評価する。問題 3 は、国民の健康に関わる幅広い生活習慣についての思考力と判断力を問う。問題 4 では、データを読み取り、基礎知識と社会背景への関心をもとに、論理的に考える総合的な思考力を評価する。

大問 2 は、運動・スポーツ、体力や生活状況、健康等と関連する調査の結果から、複数の図表を正確に読み取り、図表から情報を正しく読み取る力及び図表の情報を組み合わせて用いる力を問う。問題 1 は、図に表されていることを正しく読み取ることができるかを評価する。問題 2 は、図に示された数値を言語化して思考する力を評価する。問題 3 は、これまでに報告されているスポーツと関連するさまざまな調査・測定結果にアクセスしてスポーツ科学に関する学びを深めているかの姿勢を問う。問題 4 は情報を総合的かつ論理的に思考する力を評価する。

スポーツ科学は、異種の学問が並列する総合科学ではなく、異種の基礎科学を融合させて新たな実践科学的側面を創出する「学際的総合科学」という特性を持つが、一方でスポーツを対象とした実験的アプローチこそがスポーツ科学であるとのイメージもいまだ払拭されているとはいえない。大問 3 は、スポーツ科学を志す受験生に対し、自身の常識ないし認識を踏まえつつ、スポーツ科学の持つ学際性を理解し、スポーツを取り巻く様々な事象を多面的に捉える論述を通じて、思考力、判断力、表現力を問う。

1

表は、日本における 15 歳以上の人の、生活時間の配分や余暇時間における主な活動の状況の推移を示している。表の一部は、以下の問題に関係するために数値を示していない。この表をもとに、下記の問題 1～4 に答えなさい。

行動の種類	平日、土曜日を平均した、一日当たりの総時間(分)														
	総合 (男女の平均)					男性					女性				
	2001 年	2006 年	2011 年	2016 年	2021 年	2001 年	2006 年	2011 年	2016 年	2021 年	2001 年	2006 年	2011 年	2016 年	2021 年
A	462	459	459	457	471	469	467	466	462	476	455	452	453	452	467
食事	99	100	99	101	a	96	97	96	98		101	103	102	103	
B	31	31	31	34	31	41	41	40	43	38	21	21	22	25	23
C	232	236	225	224	218	314	317	303	296	281	155	160	151	156	159
学業	24	23	24	27	24	27	25	25	28	25	22	20	22	26	23
家事	90	92	91	87	91	14	17	19	20	26	162	161	160	151	153
介護・看護	3	3	3	4	3	1	2	2	2	2	5	5	5	6	4
育児	13	14	15	16	15	4	5	5	6	7	23	23	24	26	22
買い物	25	25	27	26	26	14	15	17	17	19	35	35	36	35	33
移動(通勤・通学を除く)	33	31	30	29	b	32	30	29	28		34	32	31	30	
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	154	147	150	138	c	160	151	154	143		148	143	147	134	
D	79	84	90	96	116	78	83	90	97	119	80	86	90	96	114
学習・自己啓発・訓練	12	10	11	11	11	12	11	12	11	12	11	10	10	10	10
スポーツ	①	②	③	④	⑤										
ボランティア活動・社会参加活動	5	5	4	4	2	4	5	4	4	2	5	5	4	4	2
交際・付き合い	27	22	19	17	d	26	20	18	15		27	24	21	19	
受診・療養	9	9	9	8	7	7	8	7	7	7	10	11	10	9	8

(出典：総務省統計局 令和 3 年社会生活基本調査)

問題1 行動の種類 , , , に入るものとして、正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ア. A. 仕事 B. 通勤・通学 C. 睡眠 D. 休養・くつろぎ
イ. A. 仕事 B. 趣味・娯楽 C. 睡眠 D. 通勤・通学
ウ. A. 仕事 B. 休養・くつろぎ C. 睡眠 D. 趣味・娯楽
エ. A. 睡眠 B. 休養・くつろぎ C. 仕事 D. 通勤・通学
オ. A. 睡眠 B. 通勤・通学 C. 仕事 D. 休養・くつろぎ
カ. A. 睡眠 B. 趣味・娯楽 C. 仕事 D. 休養・くつろぎ

問題2 「スポーツ」の ①～⑤ に入るものに入る数値として、正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ア. ①10 ②14 ③14 ④18 ⑤9
イ. ①6 ②8 ③11 ④15 ⑤19
ウ. ①11 ②13 ③12 ④12 ⑤12
エ. ①24 ②22 ③18 ④16 ⑤17
オ. ①16 ②18 ③8 ④7 ⑤7

問題3 a, b, c, dに入る数値として、正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ア. a. 131 b. 29 c. 153 d. 10
イ. a. 131 b. 22 c. 132 d. 7
ウ. a. 100 b. 29 c. 153 d. 10
エ. a. 100 b. 22 c. 132 d. 10
オ. a. 94 b. 22 c. 132 d. 7
カ. a. 94 b. 29 c. 153 d. 10

問題4 表を説明した文章として、正しい内容の組み合わせを一つ選びなさい。

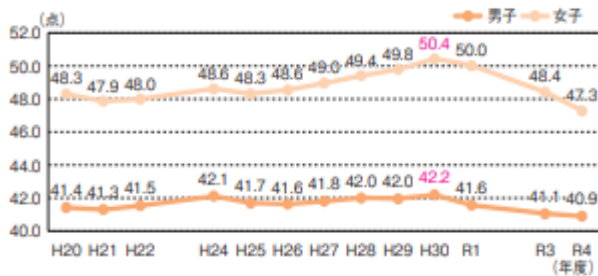
1. 2016年から2021年にかけて、男性の「家事」時間は増加しており、2001からみた5年ごとの増加率の平均も同様に、女性と比較して男性のほうが大きい。
2. 2001年から2021年にかけて、男性の「育児」時間はわずかに増加しているが、2021年を除けば女性の「育児」時間も減少傾向がみられず、「育児」に関して男性が大きく貢献しているとは言えない。
3. 「家事」「育児」「買い物」の各時間の推移から、家庭負担の男女差は次回調査において解消する。
4. 男女に関係なく、すべての行動の時間割合の推移を総合すれば、日本人の孤独化が進んでいることが読み取れる。
5. 「受診・療養」時間推移から、高齢者の「受診・療養」時間の増加を読み取ることはできない。

ア. 1, 2, 3
イ. 1, 2, 5
ウ. 1, 4, 5
エ. 2, 3, 4
オ. 3, 4, 5

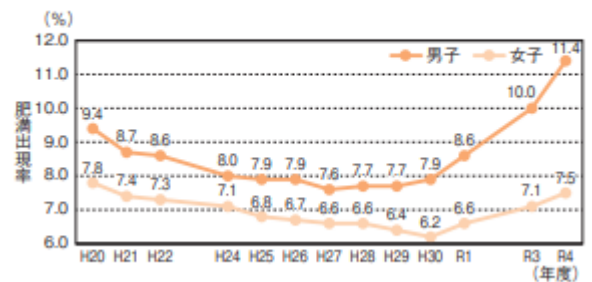
2

次の各図は、全国の中学2年生を対象とした体力・運動能力と生活状況等の調査結果に関連するものである。これらをふまえて下記の問題1～4に答えなさい。

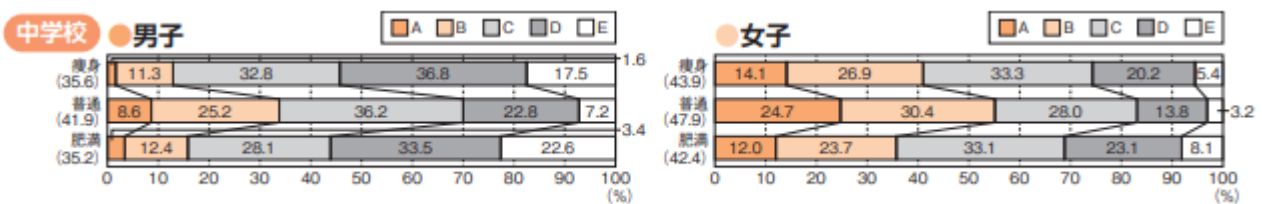
〔 体力合計点の経年変化 〕



〔 肥満傾向児の出現率の経年変化 〕

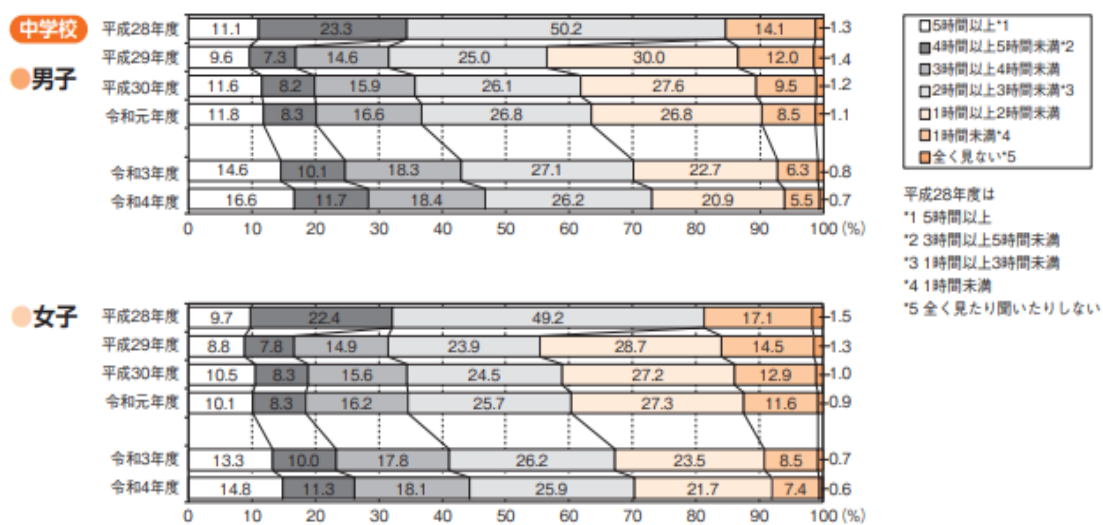


〔 肥満・痩身別にみた体力の総合評価の割合 〕



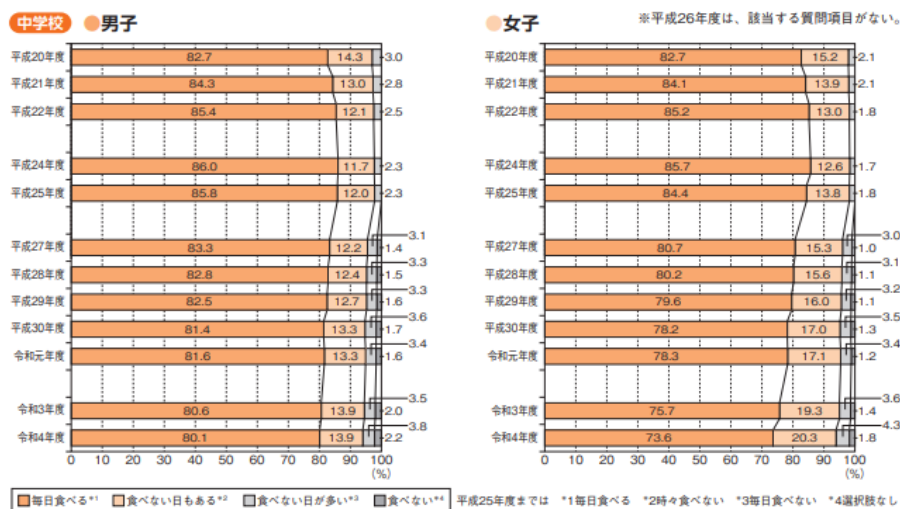
※ 総合評価は種目全てを実施した場合の合計得点を段階分けしたもので、
Aが最も高く、Eが最も低いことを示している。

〔 学習以外のスクリーンタイムの経年変化 〕



※ スクリーンタイムとは、平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間をさす。

〔 朝食の摂取状況の経年変化 〕



(出典：スポーツ庁 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書)

問題1 次のうち正しい記述には○、誤っている記述には×、図からはわからないものには△の記号を解答欄に記入しなさい。

- ア. 規則正しい生活習慣の要素であり、心身ともに健康な成長に必要である朝食の摂取状況を見ると、「毎日食べる」以外の回答をした生徒の割合は、男女ともに減少傾向にある。
- イ. 睡眠時間は平成29年度までは増加傾向であったが、それ以降は横ばいまたはやや減少している。
- ウ. スクリーンタイムの状況は、3時間以上である者の割合は男女ともに増加している。また、1時間未満の割合の減少幅が大きくなっている。
- エ. 体力合計点は、男女ともスクリーンタイムが3時間未満のグループで全国平均よりも高い。
- オ. 体格が肥満や痩身の生徒は普通の生徒と比べて、総合評価A・B群の割合が高い。

問題2 図に関連する以下の文を読み、空欄に当てはまる最も適切な語句をそれぞれ選び、記号を記入しなさい。

令和4年度調査における体力合計点は、令和3年度に続き（ A ）傾向となった。この傾向は男女で程度に若干の違いは見られるものの、全体的な傾向としてはおおむね同様であった。この結果は新型コロナウイルス感染症まん延の影響も無視できないであろうが、社会全体が効果的・効率的な感染対策に移行する中、改めて（ B ）に向けた取組の強化が求められる。さらに要因として考えられる生徒の基本的な（ C ）に関しても、改善に努めていかななくてはならない。このように取組の強化が求められる一方で、1週間の総運動時間が420分以上の生徒の割合に関しては、いずれも昨年度比で増加が見られた。

数値的には依然として令和元年度までの水準には達していないが、これまでの取組を継続していくことが期待される。

加えて、令和4年度は、保健体育の授業に関する調査項目をより充実させて調査を行った。その結果、保健体育の授業が楽しくなるためには、友達との交流機会の増加や個々の発達段階、発達ペースに見合った学習活動を取り入れることが有効であり、これらを通して、より多くの達成感や、それに伴う楽しさを感じる経験を積み重ねることが重要であることが示唆された。また、保健体育の授業が楽しいと感じている生徒においては、「運動が好き」や「卒業後も運動したい」の割合が高くなる傾向も確認された。

1

- (A) 1. 維持 2. 増加 3. 低下 4. 変動
(B) 1. 部活動時間の確保 2. 体力向上 3. 健康リスクの低減 4. ウィズコロナ
(C) 1. コミュニケーション能力 2. 部活動時間の確保 3. 余暇活動 4. 生活習慣

問題3 問題2の文の 1 に入る文章として最も適していると考えられるのは次のうちどれか。

- ア. 生徒が主体的に運動やスポーツに取り組む姿勢を養うために、保健体育の授業を含み1週間の総運動時間を420分以上確保することは、学校に求められる優先事項のひとつである。
イ. 生徒が運動やスポーツを楽しめる環境づくりなど、豊かなスポーツライフにつながる活動についての継続的支援が必要である。
ウ. 多くの友人の獲得や社会的な成長はその後の人生においても重要であり、それがスポーツ活動への参加を促すことにつながることは疑う余地もない。
エ. 生徒に健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さを伝えることが社会的な課題として求められているのである。

問題4 大問2の各図に示された調査結果をふまえ、平成30年以降の体力合計点の経年変化の要因として考えられるものを、以下のア～コの中から3つ選べ。

- ア. 睡眠時間の増加
イ. 朝食を毎日食べない者の増加
ウ. 睡眠時間の減少
エ. オリンピック・パラリンピックの開催
オ. 肥満の増加
カ. 痩せの増加
キ. 新型コロナウイルス感染者の増加
ク. 「運動が好き」な者の減少
ケ. 運動習慣の確立
コ. スクリーンタイムの増加

3

「経験や勘は科学ではないのだろうか？」という書き出しで、その文字も含めて 601 字以上 1,000 字以内で論じなさい。

(以下余白)